

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成25年11月14日 (2013.11.14)

【公表番号】特表2013-506468(P2013-506468A)
 【公表日】平成25年2月28日 (2013.2.28)
 【年通号数】公開・登録公報2013-010
 【出願番号】特願2012-531402(P2012-531402)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 5/315 (2006.01)

A 6 1 M 5/24 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 M 5/315

A 6 1 M 5/24

【手続補正書】
 【提出日】平成25年9月25日 (2013.9.25)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 7 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 7 4 】

ボタン 5 は、可動ピボット 4 2 に作用する螺旋軌道 5 2 も含む。戻り止めラチェット 5 3 は、準備工程が完了した後、可動ピボット 4 2 の如何なる動きをも留めるように螺旋軌道上に配置される。この目的のために、可動ピボット 4 2 は、ボタン 5 の螺旋軌道 5 2 を係合している小さな凹部 4 2 1 も含む。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 7 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 7 5 】

医薬品の用量のセットアップ及び投与のための薬物送達デバイスの準備中に、ボタン 5 は回転され、そして固定されたピボット 4 6 のラグ 4 6 1 は第一のチャンネル部分 5 1 1 に沿って動かされる。この回転のために、螺旋軌道 5 2 は可動ピボット 4 2 上の凹部 4 2 1 に作用し、そのことによって可動ピボット 4 2 を遠位方向に軸方向に駆動する。この操作によって、栓 8 とピストンロッド 4 1 の間のギャップを閉じるために、並びに、医薬品のプライミング量を排出するために主機構が駆動される。回転運動中に、螺旋表面 5 5 は固定されたピボット 4 6 のバックオフスプリングの部分を係合しそして圧縮する。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 7 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 7 8 】

従って、図 3 F は、医薬品の望まれる用量のセットアップ及び投与のために薬物送達デバイスが十分に準備されている、準備完了状態を示す。ここで戻り止めラチェット 5 3 は、可動ピボット 4 2 及びボタン 5 が剛直にそして恒久的に取り付けられるように可動ピボット 4 2 を留める。ボタン 5 は、逆止めラチェットが可動ピボット 4 2 の凹部 4 2 1 に亘

ってカチッと閉じられた後、回転され得ない。使用者は、そうすることによって、軸方向以外の如何なる方向にもボタンを動かすことを防がれる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 9】

図 1 6 C は、この実施態様をより詳細に説明する。ボタン 5 及び駆動スリーブ 4 2 b は駆動スリーブ 4 2 b の近位端 4 2 0 b で一緒に恒久的に取り付けられる。親ねじ 4 1 b は、説明された通り、駆動スリーブ 4 2 b の内表面上のねじ山を係合する。突起 4 2 5 b は一方で親ねじ 4 1 b を、及び他方で親ねじナット 4 6 における又は本体 1 0 における他のそれぞれのチャンネルインターフェイスを係合する。突起 4 2 5 b は、もしその位置が使用者に見えるならば、表示器として作用し得る。例えば、本体 1 0 はそのような領域において透明であり得る。ボタン 5 を回転することによって、駆動スリーブ 4 2 b は親ねじ 4 1 b に作用し、親ねじをデバイスの遠位端に向かって駆動する。同時に、突起 4 2 5 b はチャンネルインターフェイスに沿って滑り、そうすることによって、純回転運動への、そしてその後純粋な軸方向の動きへのボタンの動きが拒絶される。